

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671900342		
法人名	特定非営利活動法人 咲風会		
事業所名	グループホーム空		
所在地	徳島県三好市池田町白地ウマバ456-1		
自己評価作成日	平成26年12月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成27年3月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ズバリ環境が売りです。燦々と降り注ぐ太陽と緑に包まれた阿波の竹田城と云えます。旧三好郡以外の方々にご利用できないのが残念です。介護職員は離脱する者もなく、全員5年以上のベテランです。なお、25年後には当地域は人口が2万人に減少します。行政は里山資本主義に力を入れて戴きたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな環境のもと、日常的に全職員の意思疎通を図っている。利用者は、明るくゆったりした雰囲気の中で、落ち着いた生活を送っている。職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、自然環境を活かした、その人らしい暮らしを支援目標に掲げている。また、職員は、つねに笑顔で明るく一人ひとりに接しており、利用者は穏やかな環境のなかで生活している。職員の定着率が極めて高いため利用者と馴染みの関係を構築しており、チームで支援する組織風土が定着している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			空 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	単純明快で、覚えやすい理念であると自負している。	事業所では、“地域に密着した施設づくり”、“個性を尊重し、豊かで輝くような暮らしを支援する”の理念を掲げている。職員は、利用者一人ひとりと向き合う時間を大切にしている。職員は、本人の思いを把握し、その人らしく生活することができるよう支援しているが、職員間で理念を共有するための取り組みは十分ではない。	利用者一人ひとりに寄り添った支援に努めているが、今後、さらに利用者への支援の質を高めるためにも、地域密着型サービスの趣旨や意義について、職員間で共有化を図りたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	設立当初は痴呆に対する偏見もあったが、9年を経た今地域に密着していると自負している。	事業所では、利用者と職員で地域の新年会や祭りに出かけるなどして楽しんでいる。また、積雪時には、事業所で準備している路面凍結防止剤を要所に散布し、地域住民の生活道路の確保に取り組むなどの協力を行っている。	里山の良さを活かすためにも、地域交流は欠かせないことであるため、さらに近隣の方たちとの関係性を深めるための取り組みに期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護の立場から、認知症を脳の病気と捉えず、環境の調整と対応によって、行動心理の病状を軽減して行きたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設側からの一方通行にならぬよう、様々な分野の方々からご意見を伺いたいと思っている。	今年度は、2回、運営推進会議を実施している。開催にあたっては、地域の行事と併せて開催するなどの工夫が見受けられるが、定期的、かつ計画的に開催するまでには至っていない。	運営推進会議は、地域の方から事業所の運営について御意見をいただく貴重な機会であることから、計画化を行うなどして、概ね2か月に1回の開催に向けて取り組まれた。また、開催にあたっては、目的や議題を明確にしたり、地域の会合等の機会を活用したりして、相互の理解が深まるよう取り組まれた。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要以上の記録書類を求められ、本来業務から外れた仕事を強要されている感がする。例えば、運営推進会議。	管理者は、市の福祉関係者で構成される広域連合等の様々な活動に参画している。市や福祉関係者と連携を図りつつ、地域住民の認知症への理解や地域力の向上に努めている。	保険者である市と連携を図ることは、相互に意味のあることを確認し、各種行事の案内等を通じて、担当者にも事業所へ足を運んでもらえるよう働きかけるなど、今後の取り組みに期待する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰省本能を止めようのない方への対処法は、後をつけて行き、頃合いを見て納得していただく方法がベストではないか。	事業所として身体拘束禁止マニュアルを作成している。職員は、日頃の業務や研修会等を通じて、これらの必要性を理解し、実践している。玄関の施錠は夜間帯のみとなり、日中は見守りを中心とした支援を行うことで利用者の自由な暮らしを支えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が起こらない為には、まず職員の心の健康が大切だと思っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			空 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本人と家族の為に最善の策を講じています。(入居者の中に1名、司法書士さんを介している方がおられます)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	後でトラブルにならぬように、念を押しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置して対応しています。	電話連絡や家族の来訪時などの機会に。家族の意見や要望を把握するよう努めている。事業所内には意見箱も設置しており、つねに改善していこうとする姿勢が見受けられる。	事業所以外の苦情窓口について、契約時のみならず、繰り返し説明する機会を設けるなどされたい。意見箱についても複数の場所に設置するなどの活用が望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	終業時には1日のおさらいをしています。	朝・夕の申し送り等の際に、職員が自由に意見や提案ができる機会と体制を設けている。職員が作成した手作りのイラスト入り日課表等のアイデアなどを迅速に業務へ反映するなどして、サービスの質の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人が育つ組織運営を心がけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他社に負けぬよう、鋭意奮闘しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	みよし地域福祉連絡協議会を3年前に発足。活発に活動している。(医療・福祉の連携)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			空 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護力によって、少しでもお役にたいたい。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	フレキシブルに創造力を発揮したい。特に最初の1か月間は敏感な対応を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最近では経済的な問題に関わることも多くなった。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	廃用性萎縮。出来ることは自分です。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族のどちらかを優先するとなれば、家族である。家族が倒れれば、入居者は生きて行けなくなる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームに入居すれば、ある程度過去の関係が希薄になる。遠慮なく来荘してほしい。	利用者の重度化に伴い、積極的な外出が困難になりつつあるが、居室に写真や手紙を掲示するなどして、継続性の維持に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護者は黒子に徹すること。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			空 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去の場合は断ち切れます。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族に満足していただけるような介護で ありたい	職員は、利用者との会話や日頃の表情や仕草等から得た気づきについて話し合い、意向を把握するよう努めている。利用者主体の視点をつねに意識したり、一人ひとりの全体像を掘り下げて考えたりして、職員間で連携を図りつつ、本人のペースや希望に応じた支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やケアマネに聞いている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	症状が陽性か陰性かを見極める。陽性の場合 は少々大変です。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	時系列に記録し、その都度対応している。	職員は、日頃から本人の意向を聞き取るように努めている。介護計画は、計画作成担当者が中心となり、全職員の意見を反映して作成しているが、支援経過やモニタリングの記録は十分ではない。	支援経過、並びにモニタリング記録の詳細な記載に向けた記録の再整備を図り、利用者一人ひとりの現状に応じた介護計画の見直しに努められたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護度改善したら、給付金が減る。これは おかしい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	痴呆の呆と云う字は、人が両手を広げて “ポヤー”としている様子を表しているのだそ うです。良い漢字ではありませんか？		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			空 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	抽象的な言葉だが「豊かな暮らし」を日々構想している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療関係者との和を大切にしたい	入居後は、利用者全員が協力医療機関の往診を受けている。他の医療機関の受診は事業所で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療機関には、いつ何時も対応していただき感謝しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	31に同じ		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	最後までいてください(看取り)	事業所としての看取り介護の方針を定めた“重度化した場合の対応に係る指針”を作成している。利用者の状況変化に応じて家族と方針について話し合い、事業所として可能な限り本人や家族の意向に応じるよう取り組んでいる。実際に終末期の支援を行っており、さらに本人本意の支援ができるよう検討を行っている。	今後、さらに本人本位の終末期支援を実現させるためにも、平時から訪問看護や関係機関と密に連携を図るなどして、迅速に医療の協力を得ることができるような体制づくりに着手されることに期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	経験		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルで解決できるものは危機とは言わない。落ち着いて、適正な判断を行いたい。(危機管理)	消防署の協力を得て、通報・避難・消火訓練を実施している。また、毎月、自主的に避難訓練を実施して記録に残すなどし、災害に備えている。	事業所の立地上、災害時に消防署の支援を得るまでに長い時間を要する可能性が高いことから、地域の消防団や地域住民の協力を得ることができるよう協議を進められたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			空 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	気を付けています	日頃から職員は、利用者の人格の尊重やプライバシーに配慮している。職員一人ひとりが自身の言動に注意しつつ対応し、家族のような優しい接し方や声かけで誘導等の支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	頼れる介護者でありたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行動制限を極力抑えて、自分に合った生活パターンで過ごしていただきたい		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔かつおしゃれな服装でいてください		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	衛生上無理がある。	職員が手作りの食事を提供している。とろみやミキサー食など、一人ひとりに合った食事形態にも対応し、本人の状況・状態に応じた食事支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態の変化に応じて、対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	噛む力を重視して、歯科によく通院しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			空 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツは高いので、必要最小限に留めています	事業所では、利用者ひとり一人の排泄パターンの把握に努めている。職員は、時間を見計らってトイレへの誘導を行っており、自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	①便秘②脱水③発熱④慢性疾患の悪化⑤季節の変わり目⑥薬 この順に調べる。徘徊や不穏が出れば、まず便秘を疑う。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	湧水、太陽光利用、毎日入浴。但し入浴は職員負担が大。	原則として、少なくとも週2日は入浴してもらえるよう支援しているが、希望に応じて毎日でも入浴できる体制を設けている。排泄の失敗や体調変化等には臨機応変に対応している。また、就寝前には利用者全員へのシャワー浴を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	7時間睡眠を確保しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の理解は不十分。特にアルツハイマー薬。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員の創造力に負うところが大きい		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬以外はよく出掛けています。	天候の良い日には、敷地内南側の広い庭園で、利用者都職員で食事をしたり、お茶を飲んだりしている。利用者の状態に応じて、屋外で活動する機会を継続的に設けている。	利用者の重度化に伴い、外出が困難な状況は理解できるが、少なくとも年1回は個別の要望や希望に応じた外出を支援できるよう、家族との協議も踏まえて検討されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			空 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額に限っています・		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話で話す。手紙も良いアイデアですね。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	何回も言うようですが、一番大切なのは創造力(発想力)です。	共用空間には、観葉植物を飾ったり、地元や各地の四季折々の風景写真を掲示したりしているまた、利用者の手作りの作品や装飾も飾っており、温かみのある家庭的な雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	当ホームは室内も、敷地も広く、皆さん思い思いの自分好きな場所があるみたいです。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋が殺風景にならぬよう、心掛けています。現状に満足しないよう気を付けています	事業所では、利用者に馴染みの家具等をp持ち込んでもらっている。利用者によっては、居室に愛用の品や写真を飾ったりしており、居心地の良さに配慮した居室空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廃用性萎縮、何でもしてもらっていたら、長生きできません。		